

第一 部金貳錢 廣五號十二 休日 日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町三番  
 第二 部金貳錢 廣五號十二 休日 日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町三番  
 第三 部金貳錢 廣五號十二 休日 日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町三番  
 第四 部金貳錢 廣五號十二 休日 日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町三番  
 第五 部金貳錢 廣五號十二 休日 日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町三番

日刊 發行所 常盤毎日印刷所  
 印刷 川崎文治  
 本社 同前地 (電話六三〇番)  
 印刷所 常盤毎日印刷所

常盤新報

刊 夕 日 六 廿 月 十

倫理と感情 (四)  
 桑原英之助

楠公の誠忠なるものも大君を思ふと言ふ純なる信念であつた、北條時宗が敢然として元の大軍に抗したのも祖國を思ふ純なる信念であつた、しかもかゝる信念は、如何なる力を以てするも動かすことが出来ないものである、我邦は上古の時代から此の純一無雜の信念が民族精神の核子となつてつたのであつた、それは萬葉集のところどころに歴然

として現れてをるのである此の純一無雜の信念が長い時期に亘つて佛教や儒教の偉大なる感化を受けて發展し來つたのであつた、大和魂と云ひ、武士道といふも之を稱したものに外ならぬのである、我邦の倫理はかくの如くに發展して來たものを愈々發展して行けばよいのである。

昔し唐の元和時代に鳥巢道林禪師といふ高德の禪僧があつた、此の僧が松の枝葉の盤屈して蓋の如くなるを見て常に其上に住まればたものだから、時の人が鳥窠和尚と言つてをつたのであるが、此の和尚の處に或

日嘗時江山の知事をしてをつた白居易が訪れて來た、そして禪師の樹上にをるのを見て、禪師の住處甚だ危険なりと言ふと、和尚の曰はれるには、さう言ふお前が危険尤も甚しと、それをきいて白居易は私は、微祿ながら江山の知事を勤めてをりますから、日常生活に何の不足もない身分で御座ります、それを危険尤も甚しと仰せられては腑に落ちませぬと言ふと、鳥窠和尚が薪火相交つて識性停らず險に非ざることを得んやと曰はれた。

和久井屋  
 絶對に!!  
 ハゲヌ コハレヌ  
 万年食器  
 一度御使用を願へば必ず再度の御注文を頂ける事を疑ひませぬ  
 何卒御來店下さい

平二丁目

貸家案内

白銀町 料理店 金八十圓  
 旅館向 金二十圓  
 全 勤人向 金八圓  
 仲間町 全 金五圓半  
 全 金四圓半  
 五丁目 全 金五圓

加藤營業所  
 白銀町(電話三三番)

何んでも揃ふ  
 買いい良いい店  
 コクタイ 三幸堂  
 平二丁目

藤沼醫院  
 内科、小兒科、花柳病科  
 入院需應  
 未廣の鳥料理  
 季節向 水たきを初めました  
 御試食を願ひます  
 割烹末  
 頭痛に即効薬  
 荒川のノーション  
 特約店 大平屋薬店  
 電話六四二番

食慾すゝむ秋來る  
 お散策におやつに  
 松本のパン  
 一斤 十六錢  
 一ツ 五錢

正札堂  
 通車停町平

ヤトモツマ  
 番四一二話電

冬學の洋服  
 一二年生用 一、七〇錢  
 三四年生用 一、八〇錢  
 四五年生用 二、〇〇錢  
 五六年生用 二、二〇錢  
 高等科生用 三、〇〇錢  
 中學生用 三、三〇錢

御存じですか?  
 驛前新道通りの  
 ダイヤ堂  
 販賣修繕 鈴木時計店を  
 呼出電話八〇五番

光線新設 物理學的診療法  
 主任 醫學博士 難波 波  
 技師 醫學博士 工藤 慶  
 技師 醫學博士 小西 林  
 技師 醫學博士 熊英 夫  
 藥局長 吉本 孝平

耳鼻咽喉科専門  
 部長 醫學士 井上 俊次郎  
 部長 醫學士 渡部 貞助  
 本院醫學士 岡 賀澤 忠治  
 本院醫學士 法學士 賀澤 忠治  
 本院醫學士 法學士 賀澤 忠治

外科 內科 皮膚泌尿科  
 院長 醫學博士 難波 波  
 部長 醫學博士 中西 林  
 部長 醫學博士 氏家 憲  
 部長 醫學博士 桂 重次  
 部長 醫學博士 松 枝 茂

產婦人科 女子泌尿科  
 部長 醫學博士 松 枝 茂

### 少壯議員が奮起し

#### 舌鋒鋭く怪聞に突撃

期待さるゝ廿日の町會  
真相果して如何

平町會は廿日午後一時から開會される、議案は傳染病豫防費其他の追加豫算の件、實行豫算報告の件であるが、此外一部町會議員が電燈値下問題に關して聞き捨てならぬ怪聞を傳へられて居り且つ水道起債に關し町の決議を無視して反對的行動に出でつゝある町議等の責任を追究し事の真相を明らかにせんとて少壯議員が結束奮起し夫々質問の舌鋒鋭く肉迫する筈であるから意外に緊張した場面を展開するであらうと

### 整理案を

#### 大体に承認

警銀公金預金委員會は昨日午後一時から訓官院に於て開會、過般警銀の發表した整理案に關し協議せる結果大体是れを承認する事となつたが唯一割五分の切り捨て額を年賦支拂の最終年限たる十ヶ年後に利子其他の名目にて支拂はれたしとの意見多く結局是れを委員が警銀に對し交渉する事になつた

### 木炭不況

#### 濱三郡組合協議

濱三郡木炭同者組合では需

### 減收か?

#### 早冷のため

石城郡農會では稻増收品評會を審査のため二十四日から第一回の坪がりを行つてゐるが今年の米作は九月以來の早冷で意外に悪く太浦村の如きは一反七俵收穫は極上で平均漸く四俵半位に過ぎず平年より一俵以上の減收を見たこの分では郡内の本年度實收高は前年の十五萬四千石に比べ一割近く減收だらうと悲觀されてゐる

### 地主團

#### 勿來の振農會

勿來町に大正十一年設立された小作人との意思の疏通機關たる地主五十七名よりなる振農會は爾來増收と産米改良に専心しつゝあつた結果近年同町の産米改良成績は六七年前の不成績に對

### 波亂を豫想される

#### 明日の憲派幹部會

萩原吉田兩氏を除外した  
意味ありげな嘆願書

石城憲政會にては明廿七日午後一時からクラブ樓上に於て幹部會を開く事になつたが右の幹部會を開くに至つた経緯に關し巷間傳ふる處に依れば時局問題及び同黨支部の地方幹事及び評議員再選との二つの理由に、基き幹部會召集に關して常任幹事十三名が連印の歎願書を認め會長宛に提出した爲めであるが茲に奇怪と云ふべきは常

### 理由に

基き幹部會召集に關して常任幹事十三名が連印の歎願書を認め會長宛に提出した爲めであるが茲に奇怪と云ふべきは常

して郡下第一を誇るに至り且兩者の協調頗る圓滑に終始してゐるところから未だかつて一回の小作争議は勿論小作料の値上げ値下その他に就いて一の私語さへ耳にしたことがないといふ現

### あすから秋晴れ

#### 鎌入れには遅れまい

鎌入を控へた石城郡地方は二十四日來天氣が定まらず二十五日は遂に雨になり廿六日も引續き雨を見たのでこれがため鎌入れが遅れるのではないかと非常に憂慮してゐるが右について小名濱測候所では語る

### 女生徒重傷

#### 又も乱暴自動車

石城郡江名町大字中の作近藤久治(二)は廿二日午前七時四十分頃貨物自動車を運轉して同郡玉川村大字大原矢田川橋附近縣道を疾走中警笛を鳴らさず登校途中の同村字西細谷草野チカ子(八)の後方より右側泥除にて突き飛ばし前額部其他に重傷を負はせ平署にて取調中

### 貯水タンク

#### 四倉町に設く

石城郡四倉町では火防の目的から同町字新町漁業組合前に長さ五間巾九尺、深さ七尺餘の貯水タンクを設置する事となり設計中であつたが愈々工費五百餘圓をもつて近く着工する事になつた

### 女中泣かせ

#### 平署に説諭願

石城郡小名濱町小名濱冷凍庫事務所雇人静岡縣生れ大澤茂太郎(一)は以前神奈川縣川崎町に居住せる際同町料理店持田屋方の女中増村トク(二)と顔馴染となり遊興費を屢々立替へせしめ其額六十五圓七十九錢に達したが右に立替金をトクに支拂す肩書地に轉居し幾回請求するも返事がないとして此程平署に説諭方願出た

### 明日の天気

#### 雨上り晴曇半す

製法にまづ粟を釜で軟くするまで茹で、外皮と澱皮とを取除き瀬戸引鍋に入れ、この中へ砂糖と食鹽とを加へ、更に水一合を注ぎ、火にかけて煮詰めたものをすゐのうで裏漉致します、次に鶏卵二個分の黄味のみを取つて鍋に入れ、充分よく掻き混ぜこの中へ前の裏漉



栗の揚物

材料 生粟五合、砂糖五十匁、鶏卵二個、食鹽茶匙一杯、パン粉少量、胡麻油適宜

### 處置

るは失當の買つて居るから明日の幹部會に於て策謀組がその鋒芒を露出するに至つて問題は表面化し大なる波瀾を捲き起すに至るであらうと觀測されて居る

### 「來年の曆」

勤め人には損な方歳末を告げる先振れ神宮神部署發行の昭和五年の伊勢曆が早くも街頭に現れた。來年は丁度我が紀元二千九百九十年。西曆千九百三十年共に端數のない覺えやすい年だ。二年の後を見れば今年より二の庚午である、勇まし

### 木村星兩氏の講演會を開く

#### 勿來青年商業團

勿來町青年團及商業組合では沈滞せる商業の打開策として代議士木村清治氏の歸朝を待ち同氏及星一氏が招聘して大講演會を開演すべく準備中である